



# 耐震診断・改修補助 制度を活用しよう

昭和56年5月31日以前に着工された建物の耐震診断及び改修工事費用の一部を補助する制度です。

## 山口市住宅・建築物耐震化促進事業補助金[平成24年度]

### ▼耐震診断

木造一戸建て住宅	診断費用の全額(上限60,000円)
一定規模以上の病院などの建築物	診断費用の2/3(上限1,000,000円)

### ▼耐震改修

木造一戸建て住宅	改修費用の2/3(上限600,000円)
緊急輸送道路沿道建築物	改修費用の2/3(上限8,000,000円)

お問い合わせ 市開発指導課 建築指導担当 ☎083-934-2847

# 地震がもたらす 様々な災害

ゆれやすさ  
マップを確認  
しましょう

## 地震

地震が発生したら…

### 緊急地震速報が通知されます!

緊急地震速報とは、地震発生直後に、各地での揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報のことです。震度「5弱」以上で発表され、ラジオ・テレビ・携帯電話端末等で報知音が鳴ります。



※  
ライフライン  
被害

建物倒壊

P.26へ

火災

P.24へ

津波



※水道、下水道、電力、ガス、電話等

# 地震対策

地震による被害を最小限にとどめるため、日頃から各家庭で備えましょう。

## 1 家具を固定

家具、食器棚等が倒れてこないよう、つっぱり棒などで固定し、上部に重いものを置かないようにしましょう。

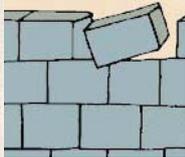


## 2 ガラスの飛散を防ぐ

割れたガラスでケガをしないよう、飛散防止フィルムを貼る等しましょう。

## 3 ブロック塀等の確認

老朽化により、ひび割れ、破損等していないか、鉄筋が入っているか確認しましょう。



# 地震発生時には

まずは、自分の身を守ることが第一。  
落ちついて行動しましょう。



## 屋外にいたら

### 路上

- ブロック塀や自動販売機等から離れる。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。
- 空き地や近くの公園等に避難する。



### 車を運転中

- ゆっくりスピードを落とし、道路の左側に停車する。
- 揺れがおさまるまで車外には出ず、カーラジオ等で情報を収集する。
- 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証等の貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

## 屋内にいたら

### エレベーターの中

- 大きな揺れを感じたら、すべての階のボタンを押し、停止した階で外に出る。
- 閉じ込められた時は、非常ボタンやインターホンで連絡を取り、救助を待つ。



### 家の中

- 大きな揺れを感じたら、テーブルの下に隠れ、身を守ることを最優先に。
- 無理をして火を消そうとしない。
- 裸足で歩きまわらない(ガラスの破片等でケガをする)。



### 電車等の車内

- 将棋倒しや網棚からの落下物に注意し、つり革や手すりにしっかりつかまる。
- 座っている時は、足をふんばって上体を前かがみにし、カバン等で頭を保護する。
- 勝手に降車せず、乗務員の指示に従って落ち着いた行動を。

### 海岸付近

- 高台へ避難し、津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまで沿岸部には近付かない。



### 集合住宅

- ドアや窓を開けて逃げ道を確保する。
- 避難にはエレベーターは絶対使わない。



### デパート・スーパー

- ショーケースの転倒、商品の落下、ガラスの破片に注意。衣類や手荷物で頭を守る。
- 係員の指示に従う等落ち着いて行動を。



### もしもの時のポイント

## 地震発生後の避難

### 1 自宅にとどまることが安全か確認

火災や倒壊の危険がない場合は、自宅にとどまり、テレビ等で情報を収集しましょう。

### 2 近くの公園、広場へ

建物が危険な場合は、近くの公園、広場へ一時的に避難しましょう。

### 3 予定避難場所へ

避難生活場所となる予定避難場所へ移動しましょう。

- Step1** ● 落ち着いて、自分の身を守る
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する
- ↓
- Step2** ● 火の元を確認、出火していたら初期消火
- 家族や周りの人の安全を確認
  - 非常持出品を用意する
  - 逃げる時は運動靴をはく

# 特集

# 南海トラフ

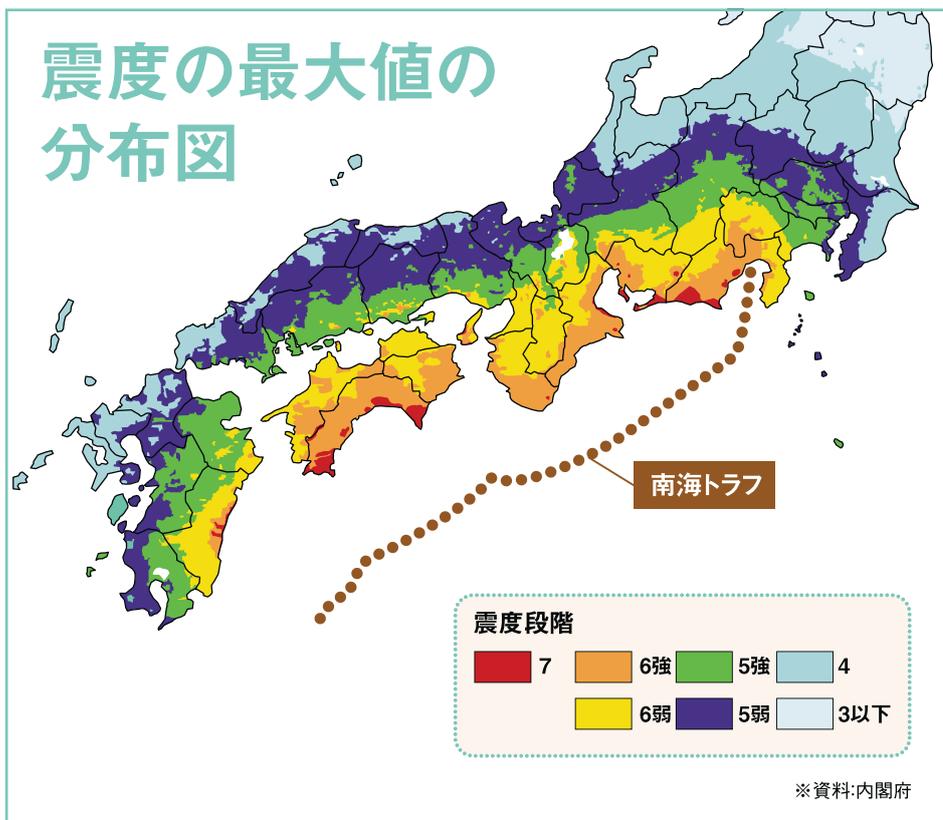
南海トラフの地震。それは、100〜150年おきに発生すると考えられているマグニチュード8クラスの海溝型大地震。東日本大震災の教訓を生かし、地震に備えましょう。

## 南海トラフの地震

東海・東南海・南海地震の震源域が連なる、太平洋の南海トラフを震源とする巨大地震のことで、発生すれば東海から九州東部にかけて甚大な被害が予測されます。

## 高い発生確率

国の地震調査研究推進本部は、今後30年以内の地震発生確率は、想定東海地震88%、東南海地震70%程度、南海地震60%程度と公表しています。



## 南海トラフの巨大地震モデル検討会の推計

平成23年8月内閣府設置の南海トラフの巨大地震モデル検討会の推計結果によると、東北地方太平洋沖地震と同様に、マグニチュード9クラスの巨大地震・津波が発生するとされています。

これは、発生頻度は極めて低いものの発生しうる最大クラスの地震・津波を推計したもので、山口市における被害想定は、最大津波高(満潮位)5m、最短津波到着時間(津波高1m)約2時間、最大震度5強となっています。まずは、各家庭において家具の固定等地震に備え、地震発生後は、情報の収集に努めると共に、沿岸部にお住まいの方は、慌てずに高台等へ避難しましょう。

防災対策チェック

防災情報

避難について

災害の種類・目安

風水害対策

地震・津波対策

火災対策

応急手当

自主防災活動

Aサイトマップ

まずは  
知ることから

# 災害の知識

# 津波

つなみ

まずは、避難。  
絶対に海岸や河口には近づかない！

## ◆津波に備えよう

### 地

震によって引き起こされた大波が沿岸に押し寄せることを津波と言います。強い揺れまたは弱い揺れであっても長い間ゆつくりとした揺れを感じた時、急な引き潮があった時は、一刻も早く沿岸部を離れ、高台等の安全な場所への避難が必要です。

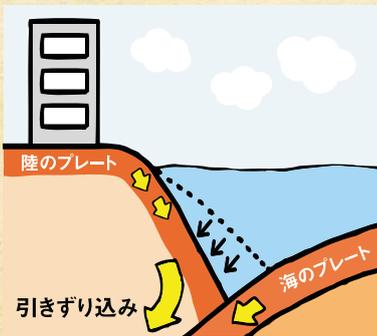


## ◆津波の仕組み

### プレート境界型(海溝型)地震(南海地震等)

海のプレートが陸のプレートの下へ沈み込む時に、陸のプレートの先のほうも下に引きずり込まれます。この陸のプレートがその力に耐えきれず、元に戻ろうとする時に地震が発生します。この地震は巨大地震となることがあり、津波を伴います。

#### ▼ひずみの蓄積

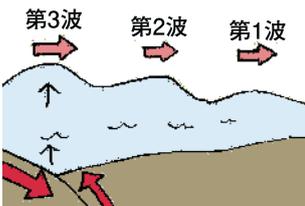


#### ▼津波の発生



津波はいつ起こるか分かりません

#### 津波は繰り返す



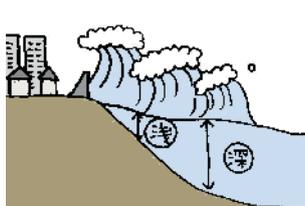
津波は繰り返し襲ってくるので、1回目で安心しないこと。しばらく注意し、警報や注意報が解除されるまで沿岸部に近付かないようにしましょう。

#### 予兆もなく襲ってくる



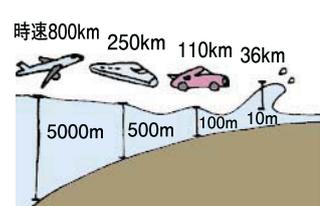
必ずしも、津波の前に引き潮(予兆)があるとは限りません。地震の起こり方や、震源付近の地形によっては、引き潮が起らないこともあります。

#### 想像以上の高さ



津波の高さは海岸の地形等に大きく左右されます。東日本大震災では、想像以上の津波が確認されています。

#### ジェット機並みの速さ



津波の速さは海が深いほど速く、太平洋ではジェット機並み。海岸近くでも36km/時程度の速さなので、津波が見えてからでは逃げ切れません。

## ◆津波の恐ろしさ

# 津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

## 津波警報・注意報

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後、約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報が気象庁から発表されます。その後「予想される津波の高さ」、「津波の到着予想時刻」等の情報が発表されます。

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現		
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	<p>沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。</p> <p>ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう！</p>  <p>津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(気象庁)の1シーン</p>	<p>木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。</p>  <p>(10mを超える津波により木造家屋が流失)</p>
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	<p>海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。</p> 	<p>標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。</p>  <p>豊頃町提供 (2003年)</p>
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	<p>海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。</p> 	<p>海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。</p> 

・震源が陸地に近いと津波警報が津波の襲来に間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。

資料:気象庁



▲ 俗説を信じない  
「ここは大丈夫」という思い込みが最も危険。常に警戒心を持って行動しましょう。



▲ 遠くよりも高く  
浸水が始まると避難が困難なため、遠くよりも高い場所等に逃げ込みましょう。



▲ 車は使わない  
原則、車での避難はNG。東日本大震災では渋滞が発生し、被害を大きくしました。



▲ 勝手な判断をしない  
小さい揺れでも、揺れを感じなくても、まずは避難を最優先にしましょう。

## 4つのポイント 避難時における